



(医)潤心会理事長(岩手県)  
鈴木千枝子 ⑦

私が住んでいる岩手県の矢巾町は、県都盛岡の南隣に位置し、人口2万7千人あまりの小さな町である。

母校の岩手医科大学の移転事業が進行中で、岩手県内では珍しく人口が減少していない町で、小学校は4校ある。その中の

一番田舎の不動小学校で平成7年から学校歯科医を務めている。同校の平成10年の歯科保健記録を見ると、6年生72人のDMF総数はなんと218本、DMFTは3.03、6年生1人の永久歯のむし歯は3本あることになり、むし歯予防に目覚めていた

けてくれるのだが、高学年になると、のれんに腕押し、ぬかにくぎ状態。学校の先生って偉いなーと落ち込んだりもしていた。めげずに続けていると、子供たちから「あつ千枝子先生だ、こんにちは〜」なんてあいさつされるようになった。

## 矢巾町立不動小学校

当時の私は、その年からDMFT1.0以下を目標に活動を始めた。

まずは押し売り授業。迷惑そうな学校側をしり目に、6学年2クラスずつで12回、お昼休みを利用してせつせと通った。田舎の素直な子供たちは3年生くらいまでは、乗りよく授業を受

そしてやる気のある養護教諭が赴任してきた。その養教さんと私は「夏休み親子染出しバトル」、「児童保健委員による1年生の歯みがき指導」、「全校朝会での発表」、「1年生親子仕上げ磨き教室」、「千枝子先生の秋のむし歯チェック」など次々に発案し、実行していった。

その結果、平成20年には第47回全日本学校歯科保健優良校表彰において最優秀校に選ばれ、文部科学大臣賞をもらってしま

った。自分ももらったわけではな

いけれどもすごうれしかった。そしてマイブームが去った。

現在も前記の活動は代々の養教に引き継がれている。平成26年の6年生は28人でむし歯は6本、DMFTは0.21と、むし歯も減ったが子供も減った。内容の同じ授業をだらだら続けているが、子供たちや先生は入れ替わっているので全く問題ない。

でも来年は、少し目線を変えて「鼻呼吸」とか「あいっべ体操」とか教えようかなと思っ

今日のごほうである。